

2015年12月21日(月)

申込み不要

時間：15：15～16：45

場所：10号館3階(301)会議室

対象：全学部・全研究科 (男女問わず)

在米30年：

研究者の生き方—日米の違いを越えて

Texas Woman's University で言語コミュニケーション科学／障害を専門に研究されているレビット順子先生をお迎えし、講演会を開催します。専門分野の研究のこと、大学生活のこと、日常生活のことなど、さまざまな角度からお話をうかがいます。

コーディネーター：荒井 隆行教授(理工学部情報理工学科)

グローバル・メンター：Dr. June S Levitt (Texas Woman's University)

Communication Sciences and Disorders

Area of Expertise:

Speech Production, Experimental phonetics,
Neural base of speech, Parkinson's disease



レビット順子先生は大学卒業後コンピューターソフト会社に勤められ、仕事で出会ったアメリカ人男性と結婚、出産後、自営技術翻訳の仕事をしばらくされた後、大学院に進むことを決意し、コミュニケーション科学、脳科学、専攻などを専攻され、現在はテキサス女子大学の Assistant Professor としてご活躍されています。

主催：上智学院 男女共同参画推進室

TEL:03-3238-4052

<グローバル・メンター制度について>

本学では、世界35ヶ国、約150校におよぶ交換留学及び学術交流協定校とともに、グローバルネットワークを構築し、学生のみならず研究者も含めた国際交流を盛んに行っています。これらを活用し、海外で活躍する研究者をメンターとして、個別相談はもとより、授業、講演、交流会等を通じてアドバイスや学術指導を行う制度です。